

群馬県機構集積協力金配分基準

制定 令和元年7月24日

改正 令和3年7月7日

群馬県農政部農業構造政策課

農地集積・集約化対策事業実施要綱（平成26年2月6日付け25経営第3139号農林水産事務次官依命通知。以下「要綱」という。）別記2-1の第10の5の規定に基づき、機構集積協力金配分基準を以下のとおり定める。

1 基本方針

担い手への農地集積・集約化の促進及び担い手の経営の維持・発展を支援することを目的とし、群馬県農地中間管理事業の推進に関する基本方針の達成に資するよう、本協力金を積極的に活用する。

群馬県農地中間管理事業の推進に関する基本方針（H26.4設定）

- ・令和5年度末までに、新たに29,000haを担い手に集積し、農地の集積率を66%まで引き上げる。
- ・効率的かつ安定的な農業経営を営む者（担い手）に、機構等を活用して農地の集積・集約化を加速する。

※ 担い手とは、①認定農業者、②認定新規就農者、③基本構想水準到達者及び④集落営農経営をいう。

2 事業実施の考え方

国から配分された予算の範囲内で配分順位の高い地域または農地所有者から優先して機構集積協力金を交付するため、各協力金の優先順位については以下のとおりとし、機構集積協力金の交付単価は国が示している全国一律の交付単価とする。

(1) 各協力金の優先順位

本協力金は、地域の話合いや農地の集約化に重点を置いた事業の推進を図るため、優先順位は、①地域集積協力金の集積タイプ（中山間地域）、②集約化タイプ（中山間地域）、③集積タイプ（一般地域）、④集約化タイプ（一般地域）、⑤経営転換協力金の順とする。

なお、地域集積協力金については、県及び農地中間管理機構が協議のうえ農地中間管理事業の実施に係る重点区域・モデル地区として定めた地域を優先とし、モデル地区として定めた地域を優先した後に重点区域の順とする。またモデル地区間または重点地区間においては、機構の活用率が高い地域を優先する。

(2) 交付単価

国の要綱のとおり。

優先 順位	協力金の種類	交付単価
1	地域集積協力金 (集積タイプ)	(ア) 一般地域 ((イ) の地域以外) a 機構の活用率が20%超40%以下 : 1.0万円/10a b 機構の活用率が40%超70%以下 : 1.6万円/10a c 機構の活用率が70%超 : 2.2万円/10a ただし、前年度以前に地域集積協力金の交付を受けており、かつ、再度交付申請する地域については、(ア) の a の機構の活用率を10%超40%以下とします。 (イ) 中山間地域 a 機構の活用率が4%超15%以下 : 1.0万円/10a b 機構の活用率が15%超30%以下 : 1.6万円/10a c 機構の活用率が30%超50%以下 : 2.2万円/10a d 機構の活用率が50%超 : 2.8万円/10a
2	地域集積協力金 (集約化タイプ)	(ア) 機構の活用率 (累積) が40%超70%以下 : 0.5万円/10a (イ) 機構の活用率 (累積) が70%超 : 1.0万円/10a
3	経営転換協力金	交付要件を満たす農地の合計×1.5万円/10a (上限50万円/戸)

(3) その他

上記の優先順位に基づき協力金を交付することから、交付要件を満たした地域または農地所有者であっても優先順位が低い地域または農地所有者は、協力金の交付を受けることができない場合がある。